

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立東十条小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	ひらがなは、ほとんどの児童が正しく書くことができているが、数名習得できていない児童がいる。また、文章の読み取りの個人差が大きい。音読はできていても、内容を理解するのが難しいことがある。	新聞タイムの一環として、言葉を集めて書く活動に継続して取り組んでいく。文章の読み取りの学習では、デジタル教科書の挿絵を提示して、文章と場面絵を結びつける活動を繰り返し取り入れていく。	日記を書いたり読んだりする活動を取り入れる。正しく書く力や、文章を読んで場面を思い浮かべる力を身に付けさせていく。
2年	正答率9割以上の児童が多数いる中、正答率4割以下の児童が数名いる。正答率の低い児童は漢字の読み書きや言語に関する知識・理解にも課題があり、他の児童と差が大きくなっている。低位の児童に知識を習得させていくことが課題である。	学習した漢字や言葉は繰り返し練習させ、小テストで定着を確認する。文章を書くときに学習した漢字を使うようにし、定着できるようにする。学習の中で漢字を使う機会を増やす。読み聞かせの活動を積極的に取り入れ、文章や物語に触れる機会を増やして語彙	「言葉の学習」で扱った内容を確認、想起しやすくするために、教室内に掲示をしたり、学習用端末の学習アプリを活用して定着を図る。
3年	・最後まで問題に取り組むことができない児童がいる。文章の読み取りに時間がかかってしまい、後半の問題に取り組むめないことが原因だと考えられる。 ・「話を聞く」において、大切なことを聞きとる力を身につけることが課題である。	・問題に即した文章に線を引かせ、正確に読み取れるよう指導する。分からない言葉や疑問に思った言葉は、国語辞典で調べる習慣を身につけさせ、語彙を増やす。 ・話を聞き終わった際に、大切なところが聞きとれてい	・週末課題の日記に、テーマを設けて、それに即した文章を書けるように繰り返し練習を行う。 ・話すとき、いくつかの話題を話すのか数を提示し、話の見通しをもたせる。
4年	書くことについては、国語科で身に付けた基本的な力を他教科他領域で発展的に活用する工夫が必要であった。物語文の学習では、児童が自ら解釈し、その考えを互いに交流し合う活動を十分に行えなかった。	事実と考えを分けて書くこと、相手や目的に応じた工夫をして書くこと、「はじめ・なか・おわり」に分けて書くことを重点として、他教科での振り返りや新聞学習での指導を改善する。物語文では、児童一人一人が考えをもち、交流することで高め合う学習活動を計画す	「比べる新聞コンクール」「弁論大会」を左記の課題に対して発展的に取り組む機会とし、重点的に取り組む。他者に伝える文章を書く活動を通して、相手を意識して書いたり、自分の書いた文章を読み直したりする力を身に付けさせていく。
5年	修飾語の扱いでは、連帯修飾語の小問正答率が高いため、連体詞と連用詞を同時に扱うことができるよう工夫が必要であった。	学習指導要領3・4年(1)力に関連する項目であるので、段落の役割を理解させながら、文章を書く活動を計画的に取り入れる。	長い文章を書く作業に取り組める発展学習の時間を設定する。短い文でも2段落になるような文章が書けるような家庭学習に継続して取り組ませる。
6年	文章を書くなかで、「資料から読み取ったことを書く」問題の正答率が低く、資料を理解し文章にまとめることができるような工夫が必要であった。	資料の題名や文章、グラフなどあらゆる情報の意味を理解させながら、資料を読み取り、文章を書く活動を計画的に取り入れる。	「比べて読もう新聞コンクール」や「弁論大会」の機会を通して、新聞やインターネットで調べた内容、本などの資料を読み取り、まとめる活動を重点的に取り組む。読み手を意識して、資料の情報を整理できるように継続して取り組ませる。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立東十条小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	資料の写真から内容を読み取る力に個人差があり、資料から適切に情報を読み取ることができない。また、資料からその理由や意図を考える力が不十分である。	資料からの読み取りの時間後、読み取ったことから考える時間を多く設ける。ペアやグループで資料から読み取る時間を設け、自分の考えをもてなかった児童も考えをもてるようにする。	学習用パソコンを活用し、資料をより詳しく読み取れるようにしたり、学習した内容を定着させたりする。
4年	必要な情報を選択したり収集したりする経験が十分でなく、資料から適切に情報を読み取る力が未熟である。また、調べて分かったことを伝え合ったり、事実と考えを区別して表現したりする指導の工夫が必要である。	資料の読み取り・活用の学習場面において、読み取ったことを交流したり修正したりする活動を重視する。問題について調べ、まとめる学習場面では、協働的に問題解決する授業展開を工夫していく。	ICTを活用して協働的に問題解決に取り組んだり、考えたことを発信したりする学習活動を工夫する。
5年	「くらしをささえる水」では、浄水場の仕組みについての、正答率は低いですが、同じ大問中の他の小問の正答率は高いので、知識・技能を重視した活動を取り入れる工夫が必要であった。	同じ領域にある単元の配列を確認し、同じような流れで学習が取り組めるように、指導計画を見直す。	自分の疑問を調べるための発展学習の時間を設定したり、知識の定着を図るために家庭学習用のプリントに継続して取り組ませる。
6年	「日本の工業生産」では、工業地帯・工業地域や輸出品・輸入品、中小工場についての正答率が低いですが、同じ大問中の輸送機関の特徴について資料から読み取る問題の正答率が高いため、知識・技能を終始した活動を取り入れる工夫が必要であった。	毎時間の学習で重要となる知識・技能について、全体で確認し児童が説明する機会を設け、理解を促していく。	ミニ新聞やポスター発表、プレゼンテーションなど調べた内容を発表する機会を設け、知識・技能が他者に説明できるまで理解できるよう学習活動を工夫する。

〔様式3〕

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立東十条小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	10までの加減算は、ほとんどの児童が正確に計算することができる。しかしながら、計算スピードの個人差が大きい。また、文章問題での条件を見落とし、正しく立式することができない児童がいる。	計算ドリルや計算カードを活用して、学習内容の定着を図る。文章問題では、キーワードに線を引く、ブロックを操作する、図を描くなどの活動を通して、問題場面を想起できるようにする。	学力パワーアップ講師と連携して、習熟度に応じた学習活動を取り入れていく。教科書やプリントの問題だけでなく、きたコンを活用し、様々なパターンの練習問題に取り組み、問題を読み取る力を身に付ける。
2年	「主体的に取り組む態度」がやや低いので、意欲の低い児童が関心をもてるような授業展開を工夫する。「時間と時刻」「表とグラフ」の学習内容の定着度が低い。学習の定着度に個人差が大きい。	身近な事象などを問題に取り入れ、児童が関心をもてるような授業展開を工夫する。時間の計測やグラフをかくなど数学的な活動を日常的に取り入れる。定着度の低い児童には個に応じた問題を与え、理解が高まるようにする。	算数少人数指導担当教諭に教室を巡回してもらい、理解度に応じて個別指導を行う。習熟度の高い児童には、学習用端末を用いるなどして活用問題に取り組ませ、意欲を高める。
3年	不等号の問題では、□にあてはまる数の回答が複数あり、書き落としなどによって完答することができない児童が多い。	図やグラフを用いて、数の大小を比べる力を身に付けさせる。また、複数の回答がある問題に取り組み、書き落としがないように指導する。	習熟度別に応じた、補充問題を用意し取り組ませる。計算ドリルの宿題だけでなく、ICTを活用し、個のレベルに応じた学習が家庭で、できるように指導する。
4年	式が与えられていると正しく計算することはできるが、立式を求められたり、計算の意味を問われたりすると正答率が下がる傾向にある。また、mmを何倍にするとmになるか等、単位の換算にも課題が見られる。	文章題を読んで立式したり、式をよんで問題場面を選択したりする機会を設ける。日頃より、問題文中に出てくる単位に着目させ、どのくらいの量を示しているのかを問う。児童の日常生活の場面と、数値を結びつけることで量感を養っていく。	習熟度別の少人数指導において、児童の理解度に応じた補充問題を用意し、取り組ませる。習熟度の高い児童には、学習したことを活用できる発展問題を与える。eライブラリや、スタディサプリ等、ICTのコンテンツも紹介し、家庭でも個の能力に応じた学習ができるよ
5年	「ひし形の作図」の技能は、目標値を下回っているのは、同じ大問の中の「四角形の対角線の性質」を問う問題と関連があると考えられる。	平面図形に関連する項目が捉えられるように、板書だけでなく、他の教材も扱えるように、教材研究を行う必要がある。	図形の作図については、授業で扱った形を組み合わせた複雑な図形を描くような発展学習の時間を設定したい。補充学習として、基本的な図形を描かせるとともに、大きさや向きを変えても描けるような家庭学習に継続的に取り組ませる。
6年	「小数の計算」や「分数の計算」では、すべての項目で目標値を大きく下回っている。整数の計算方法は理解している児童が多いため、小数や分数の計算手順でつまづく児童が多いと考えられる。	数直線を用いて、小数や分数の数の大きさを視覚的に捉えられる工夫を行う。また、計算手順が身につくよう、反復練習する機会を設ける。	習熟度別に応じた、補充問題を用意し取り組ませる。計算ドリルの宿題だけでなく、ICTを活用し、個のレベルに応じた学習が家庭で、できるように指導する。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立東十条小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	自分の予想や考えをもつことはできるが、根拠に基づいた考えや理由、既習事項を踏まえた予想をもつことができている児童が少ない。	自分の生活経験を想起し、結びつけて考えることができるように指導する。既習事項を振り返る時間を設ける。	学習用パソコンを活用し、理科出てくる用語や内容を定着させる。予想や考えを共有する時間を設け、話し合いを通して考えをより明確にできるようにする。
4年	実験の目的や結果の意味を考える力、それらを自分の言葉で整理したり表現したりする力については成長段階と考える。「植物の育ち方」「光のせいしつ」等、知識の定着については、繰り返し振り返る機会が不十分であった。	根拠のある予想を書くこと、結果の意味を考えること、自分で結論をまとめること、それらを交流して互いに高め合うことを重点とした学習計画を立てる。	予想を確かめるためにどのような実験、観察をすればよいかについても考えをもたせるようにし、話し合いを通して考えを修正できるようにする。朝の「基礎基本タイム」において、ベーシックドリル等を活用して反復学習に取り組みせる。
5年	「ものの温まり方」の空気の温まり方については、実験の結果が明瞭にならない箇所であるため、知識の定着が難しかったと考えられる。	各単元において、一般化を図った知識を獲得させるために、実験の機会を増やす。	発展学習として、日常生活の様々な場面に学習したことが適用できるか調べ、タブレット端末に家庭で動画や写真を撮影できるような学習を取り入れる。補充学習として、東京ベーシックを活用した家庭学習に継続的に取り組ませる。
6年	「けんび鏡の使い方」では、スライドガラスや顕微鏡で観察する手順、倍率について、知識の定着が難しかったと考えられる。	顕微鏡を用いて観察する単元では、一人一つプレパラートを作成し、全員が観察できる機会を増やす。	教科書にある顕微鏡の使い方を資料として配付し、いつでも何度でも確かめられるよう工夫する。補充学習として、顕微鏡の使い方を確かめるプリントを活用した家庭学習に取り組ませる。